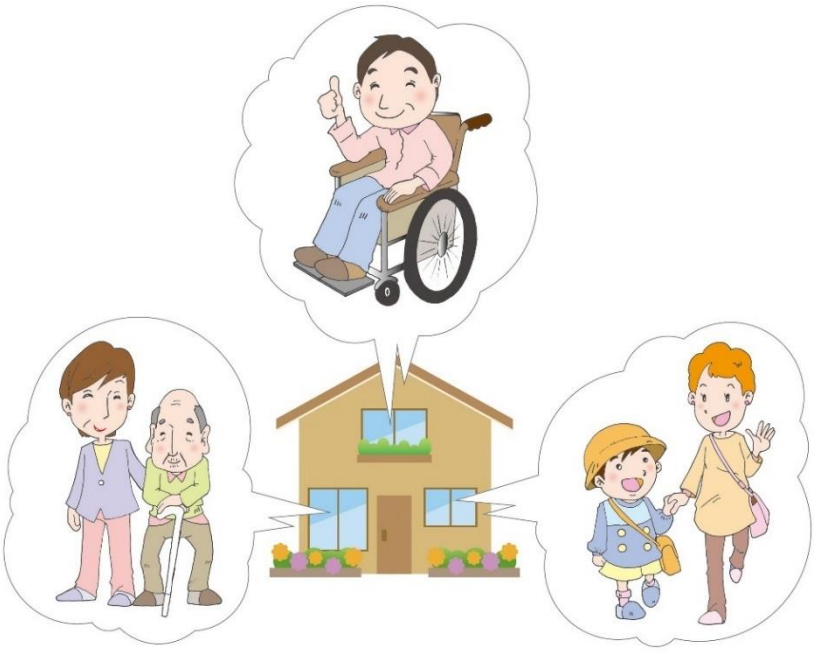
テレワーク川柳

平成三十年版　入賞・佳作　百選



＜はじめに＞

第3回となったテレワーク川柳も、だいぶ落ち着いてきたようです。今年は900以上もの応募があり、いよいよテレワーク川柳も本格的になると予想されます。また、１人で10句ぐらい作って応募しているという方も増えています。テレワークという言葉も皆様に広まっているようで、いよいよ働き方改革も本格的に動き出していると思われます。

今回のグランプリは、「終業の　合図は子とする　ハイタッチ」（四季）に決まりました。やっとテレワークも奥様や子供たちに認められ、仕事が終わったときには、子供とハイタッチをするまでになったというわけです。いや、もしかしたら、奥様はまだ自宅にはお帰りではないかもしれない。しかしテレワークにより、子供との絆がより深くなったことは喜ぶべきことでしょう。テレワークという働き方を手に入れたために、夫婦や子供達との関係が強くなることは、とても大事なことです。

また、準グランプリになった、「自宅なら　働ける人　果てしなく」（二宮付度）は、最後の「果てしなく」という言葉が、広がりを持つことで評価されたものです。自宅で働いてよいというのならば、高齢者、障碍者、育児や介護をする人、など大勢が当てはまります。そのことを「果てしなく」で表したものです。

テレワークが人々の生活や働き方を変えていき、それによって家族が、家庭が、個人が幸せになるように、またそのことは企業にとって生産性などを挙げる点ではプラスなのです。いよいよこのようにテレワークが、働き方の一部に取り入れられる事によって、全てによい影響を生み出していくことは、当たり前の事であり、これからの人々の働き方の変革の中心になることだと思われます。

一般社団法人日本テレワーク協会
ライフコース多様化とテレワーク部会
テレワーク川柳審査委員長
佐藤　百合子

グランプリ賞

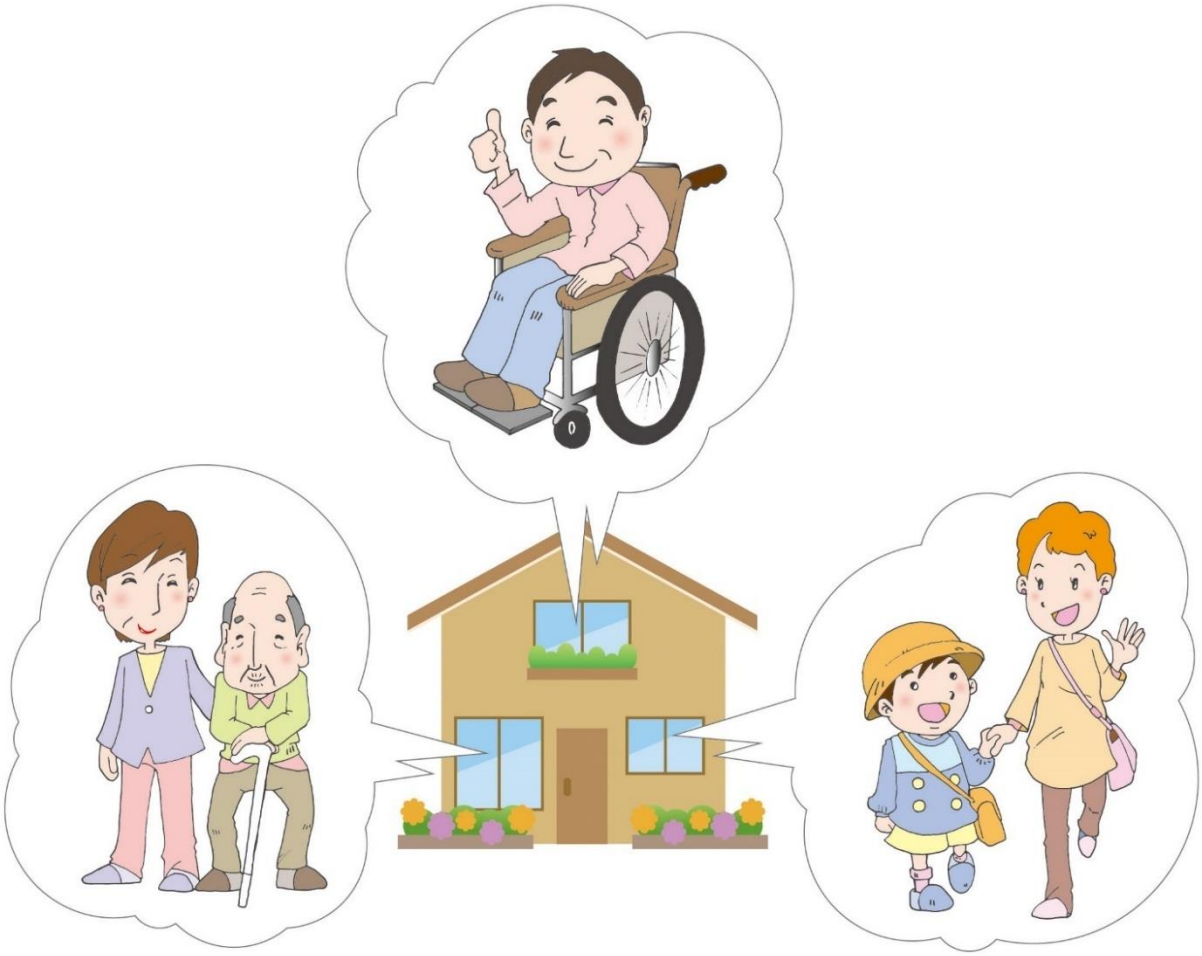
終業の合図は子とするハイタッチ

四季

準グランプリ賞

自宅なら働ける人果てしなく

二宮忖度



社　会

　テレワークは、「一億総活躍社会の実現」や「地方創生」に寄与し、「働き方改革」にも有効な手段として期待されています。
　少子高齢化が加速し労働力人口が年々減少しているわが国では、生産性の向上とともに、現在働きたくても職に就けないでいる方々の力の活用が非常に重要です。「自宅なら　働ける人　果てしなく」（準グランプリ賞作品）は、通勤するのは難しいけれども自宅の仕事なら出来る人が世の中には多数いることを表した作品です。テレワークは、そういう人が働くための重要な手段になり得ます。例えば、障がいを持つ人などがテレワークでの仕事を通じて社会に参画し、自分に自信を持てるようになれば素晴らしいことですね。

　「人生百年時代」と言われます。テレワークを通じて育児や介護と仕事の両立が出来たり、退職後の第二の人生をテレワークにより生き生きと過ごすことが出来たりするなど、テレワークは人生を豊かに暮らすための大きな力になりましょう。「テレワーク　人生百年　行けるやん」のように、テレワークを活用して健康で長生きすることが出来れば、この上ないことですね。

　北朝鮮問題や少子高齢化社会が「国難」と言われる時代ですが、「「国難」の　武器核じゃなく　テレワーク」のとおり、テレワークはわが国が少子高齢化社会に立ち向かっていくうえでの大きな武器になります。
　また、テレワークは、交通混雑の緩和にも大きな力を発揮します。「電車にも　一人分の　空きがでる？」のような一人ひとりの積み重ねが、ひいては大きな効果をもたらすのではないでしょうか。特に、２０２０年の東京オリンピック・パラリンピックには海外から大勢の観光客が日本に来ることが予想され、交通混雑が懸念されます。そこで、「オリ・パラにテレワーク・デイ　効果あり」のとおり、政府は、オリンピック開会式である７月２４日を「テレワーク・デイ」と定め、この期間のテレワークの実施を推進する運動を進めています。

　こうしたテレワーク推進の取組が進むことにより、「「いいな」から「うちも」に変わった　テレワーク」のように、テレワーク実施企業が一部の特別な企業のものではなく、多くの企業が実施するあたりまえのものになっていくと良いですね。

入賞

「いいな」から「うちも」に変わったテレワーク

桜さくら

入賞

テレワーク
人生百年
行けるやん

ロッキー

入賞

オリ・パラに テレワーク・デイ 効果あり

ゆきだるま

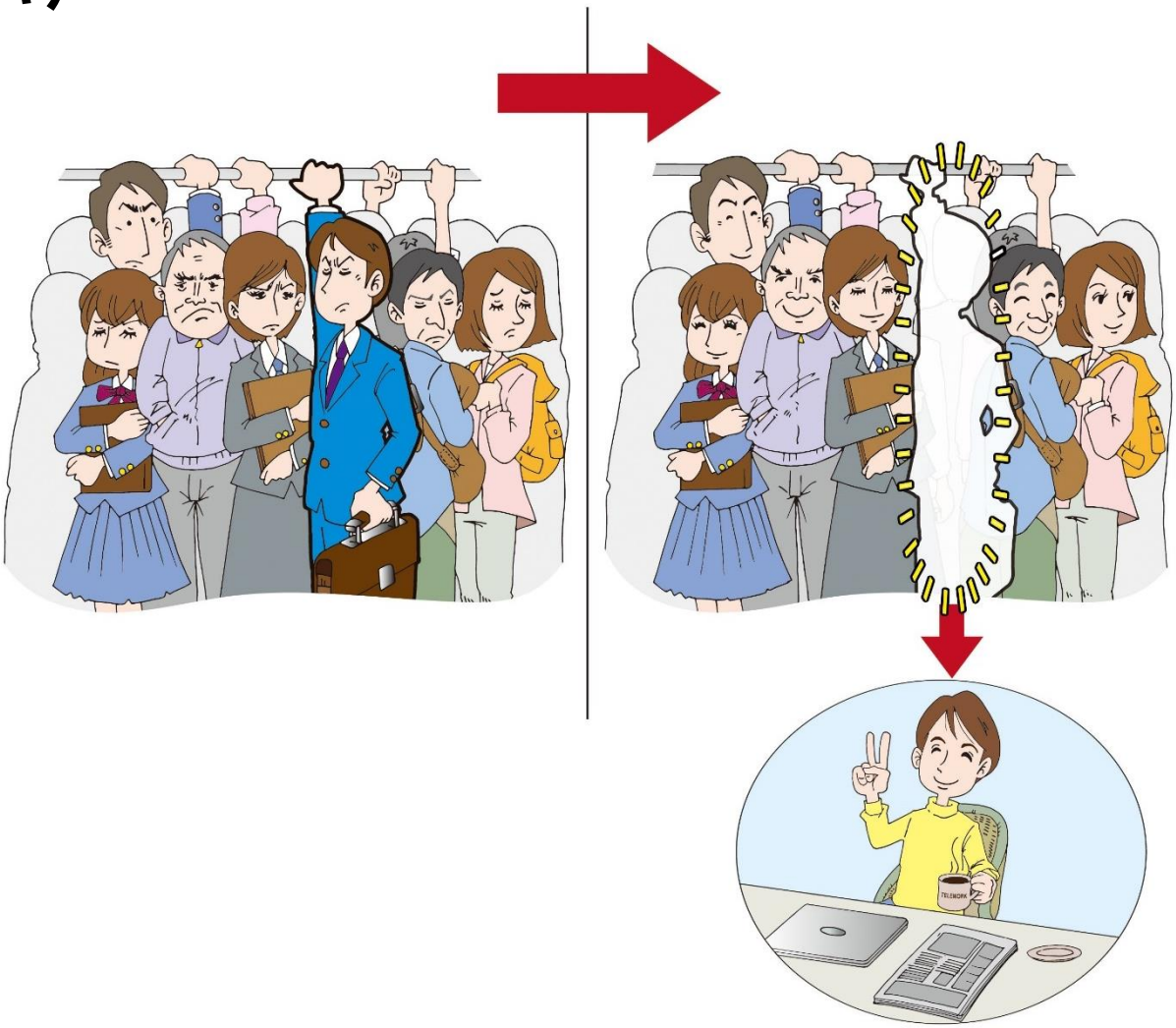
佳作　セレクション

電車にも
一人分の
空きが出る？

ちい

「国難」の
武器核じゃなく
テレワーク

東京の夕焼け



多様な働き方

テレワークは、主に育児や介護を行う人たちが仕事との両立を可能とする手段として普及してきましたが、テレワークは、例えば通勤時間の削減によって生まれた時間を有効に使うことで「ワーク・ライフ・バランス」の向上に寄与出来るものであり、育児・介護の実施者に留まらず、男女問わずすべての社員が対象になり得るものです。

「車いす　テレワークなら　ハンデなし」は、障がいを持つ方でもテレワークをすることは出来、同じ土俵の上で勝負すれば、優れた能力を発揮することが出来ることを表した作品です。障がい者、高齢者、通勤電車に乗れない方など、テレワークは、様々な方に働く場を提供することが出来、まさに「テレワーク　働き方の　バリアフリー」と言えましょう。

こうした便利なテレワークですが、企業等が導入するうえでは様々な障壁があるのもまた事実です。労務管理の制度、情報セキュリティの確保などを課題に挙げる企業等も多いのですが、実は、テレワーク導入のうえで最も大きな課題は、組織の風土や意識改革の問題です。「変えるもの　制度・システム　いや風土」は、変化をためらい従来の仕事のやり方に固執しがちな組織風土を変えていくことの重要性を謳った作品です。

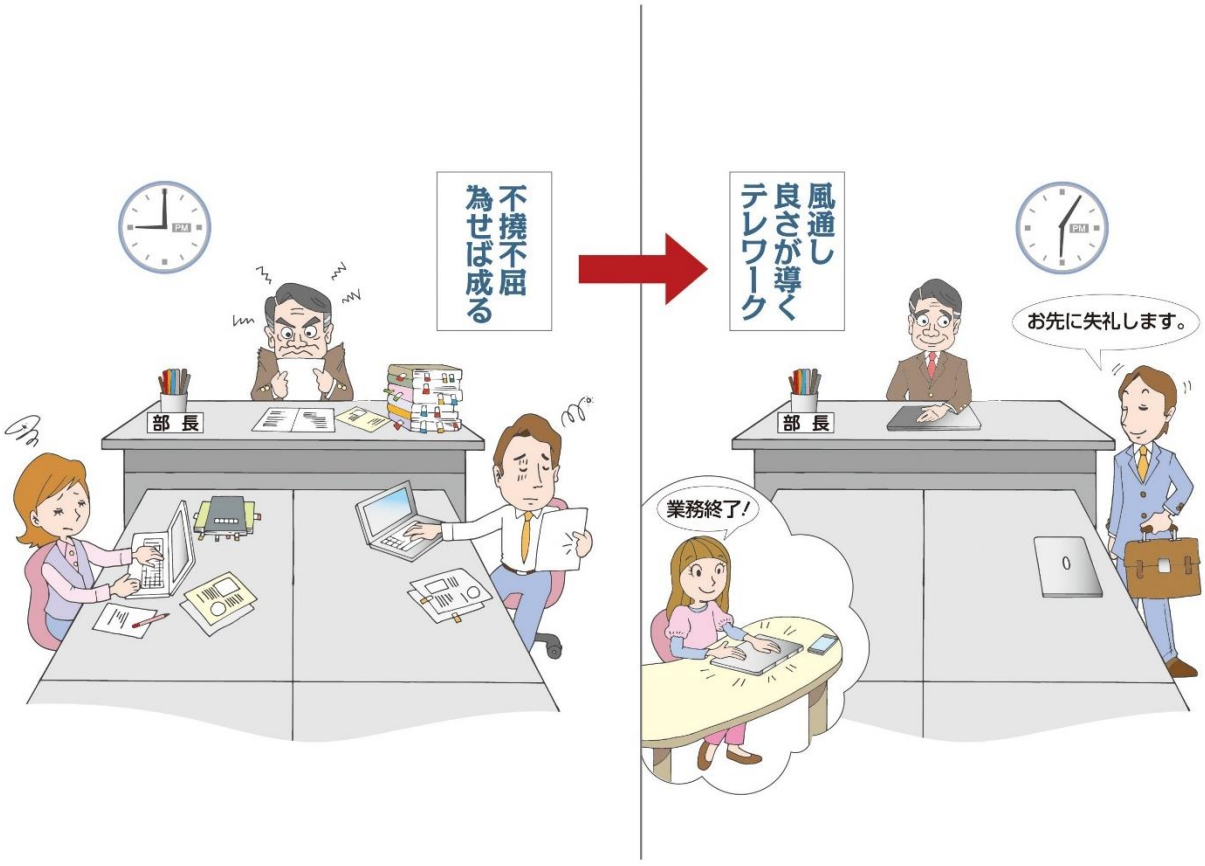
テレワークはオフィスを離れて業務を行うため、自律的で自己管理を伴う働き方が求められます。成果を上げるために、自分で業務計画を立てスケジュール管理を行ったり目標管理を行ったりすることが必要であり、「本当の　実力試す　テレワーク」と言えましょう。逆に言えば、オフィスでの仕事よりも自律的な分、責任感も生まれ仕事のやりがいも高まるのが、テレワークだと言えるのではないでしょうか。

テレワークは、「災害の　企業存続　これありき」のとおり、災害時など通勤が困難な場合でも自宅等で業務を行うことが出来るため、企業にとってＢＣＰ（事業継続）にも大きな効果があります。それ以外に、生産性の向上、人材の確保・育成、フリーアドレスやペーパーレス等によるコストダウンなど、テレワークは、企業価値の向上にも大きく寄与する施策なのです。

入賞

変えるもの 制度・システム いや風土

聖者の行進



佳作　セレクション

車いす
テレワークなら
ハンデなし

けいちゃん

テレワーク
働き方の
バリアフリー

しんち

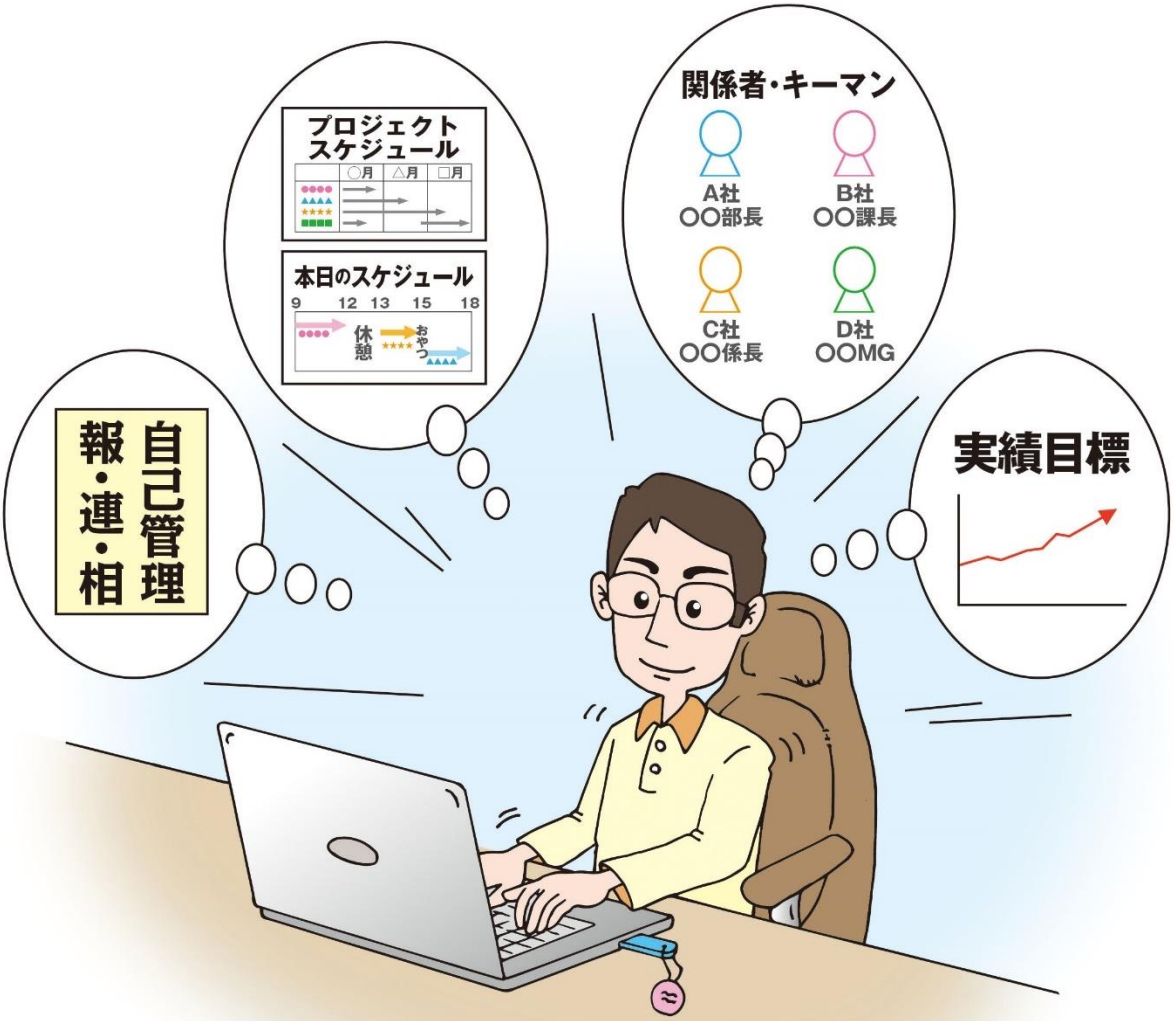
佳作 セレクション

本当の実力試すテレワーク

アカエタカ

災害の企業存続これありき

紫雲山



上司部下

テレワークや働き方改革を推進するうえで大きな障壁となるものに「粘土層」の存在があります。粘土層は、上からも下からも水を通さない粘土質の地層のことで、「ライフコース多様化とテレワーク部会」では、この言葉を、古い価値観や既存のやり方に固執して業務改革などの新しいチャレンジに取り組もうとしない「中間管理職」を意味する言葉として使ったところ、それが広く知られるようになりました。

実際、経営トップの支援が得られても、中間管理職の抵抗が大きいとテレワークの導入はなかなか進まないことが多く、テレワークの普及の鍵は、こうした粘土層の人たちをいかに巻き込み理解を得るか、にかかっていると言えます。テレワークの試行導入の際に敢えて中間管理職を対象にすることで成功した企業もありますし、テレワークを体験したことで、自分がこれまでどれだけ無駄な会議に出席して時間を費やしていたかに気づいた管理職もいると聞きます。最近は、こうした粘土層にも徐々に変化の兆しが見られるようになってきました（コラム参照）。こうした中間管理職の理解促進の取組が今後益々求められます。

中間管理職の重要な役割として、部下の「目標」と「成果」に目を向け、公正な評価を行うことが挙げられます。概して、日本企業では、上司は「長時間残って働く」部下を高く評価する傾向がありますが、本当に評価すべきは、労働時間ではなく成果です。
中間管理職には、テレワークの実施者であるか否かに関わらず、部下の業務を適正にマネジメントし彼らを公正に評価することが求められ、そのための能力が必要となってきます。テレワークの導入は、まさに「能力が　問われる管理者　青くなり」という状況を生む訳です。

こうした中間管理職も、家庭に入るとその顔は十人十色と言えましょう。家庭でも職場と同じ顔の人もいれば、全く逆の顔を見せる人もいることでしょう。「鬼課長　わずか五秒で　パパの顔」ということもあるかもしれないですね。いずれにしても、管理者であっても、ワーク・ライフ・バランスが重要であることは変わりません。全ての社員にとって、テレワークは日々の生活をより豊かにする手段となりましょう。

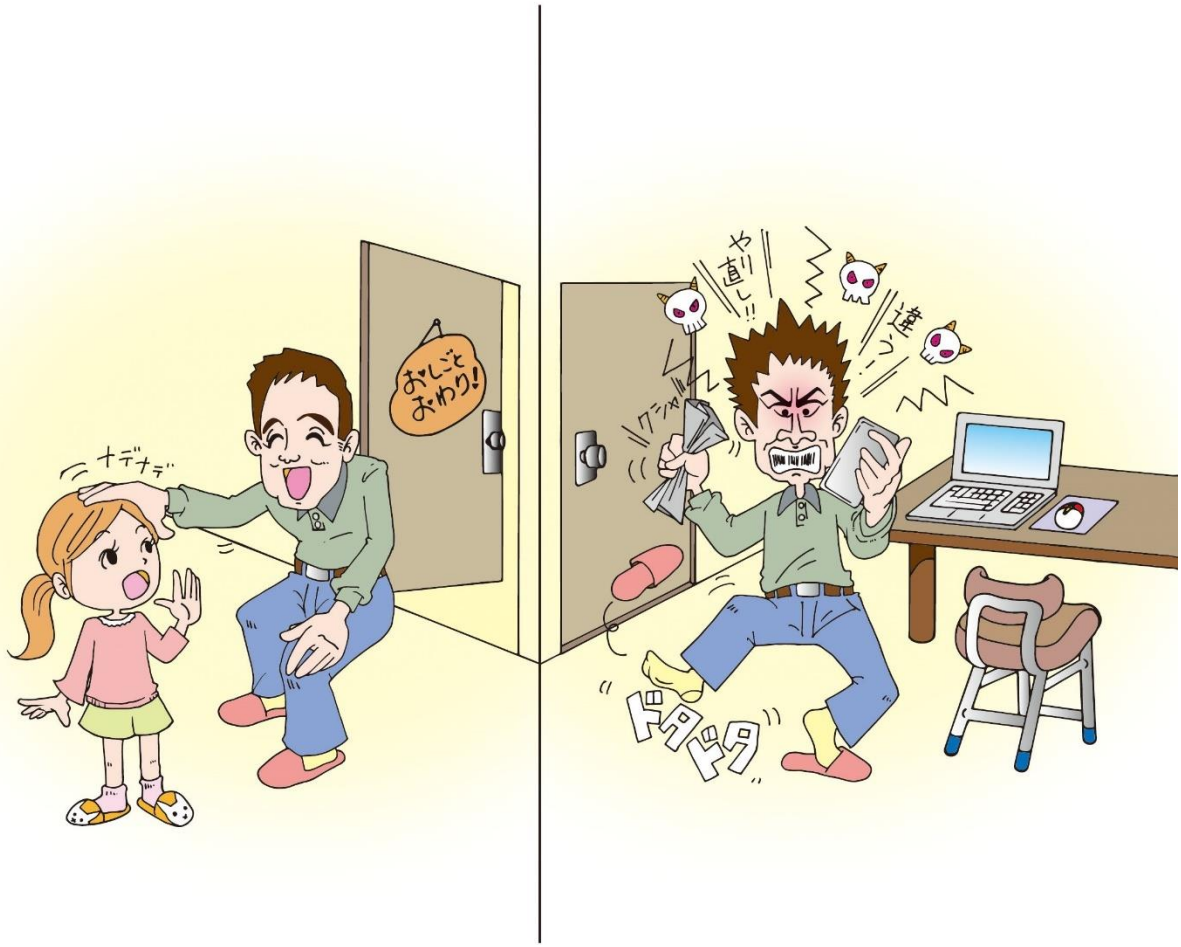
佳作　セレクション

鬼課長
わずか五秒で
パパの顔

澄海

能力が
問われる管理者
青くなり

そんな時代



コラム①　粘土層の変化

企業等にとってテレワークの導入推進の障壁ともなる「粘土層」を扱う作品を見てみると、年を経るごとに、その内容に変化がみられることが分かります。

以前は、完全に抵抗勢力であった「粘土層」も、段々テレワークを行うようになり、更には推進役になることも。以下に、この３年間の「粘土層」を扱った作品の変化を見てみましょう。

出社して　なんぼと唱える　粘土層
ぽん太（平成２７年度）

管理者の　オレ在宅でも　回るとは
高嶺の花水木（平成２８年度）

粘土層　テレワーク・デイで　開眼す
ゆきだるま（平成２９年度）

粘土でも　振り進めれば　水流れ
導入担当者（平成２９年度）

粘土層　やらせてみたら　推進派
ともはる（平成２９年度）

粘土層　だった自分が　恥ずかしい
らくちゃん（平成２９年度）

働き方（仕事）

　テレワークを実施するうえでは、社内の資料をファイル化して社員が共有できるようにしたり、外出先からメールの受発信が出来るようにするなど、ＩＣＴ（情報通信技術）を駆使した取組が必要となります。
　ＩＣＴが発達した現在では、スマホやタブレット端末でもオフィスにいるのと同様な様々な業務が可能になってきています。まさに「オフィスさえ　スマホのように　持ち歩く」時代になってきており、技術の発展はテレワーク普及の大きな力になると思われます。

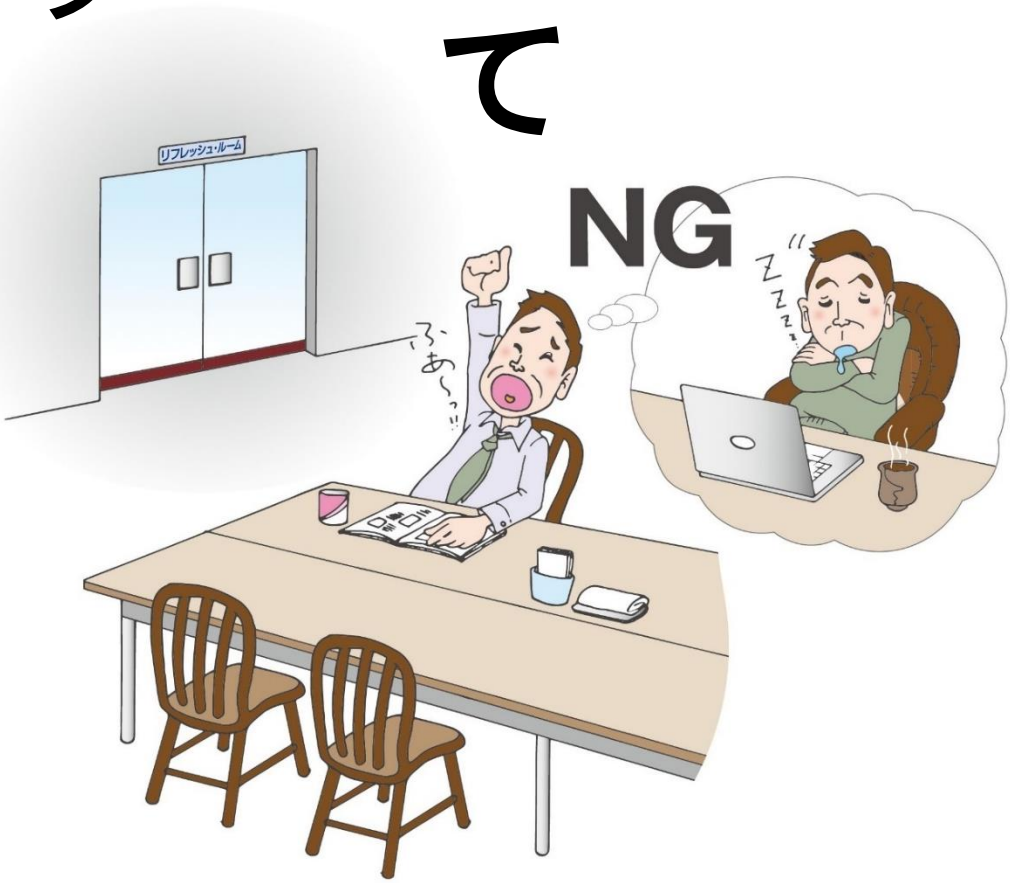
一方で、働き方改革やテレワークの推進には乗り越えるべき課題が多いのも確かです。
「今日もまた　はんこのために　出社する」は、働き方改革の困難さを表現した作品と言えます。テレワークを実施するうえでは、ペーパーレス化や決裁のオンライン化などを進め、仕事のやり方を変えていく風土を作っていくことが重要ですが、なかなかそれが出来ない企業も多いように思います。「はんこ」は、テレワークの足かせとなる旧態依然の仕事のやり方や風習の象徴と言えるのではないでしょうか。テレワークの実施を妨げる障壁を一つひとつ取り除いていくことが大きな課題ですね。

　また、テレワーク実施上の企業側の心配事として、「会社の管理から離れたところで仕事をする社員がサボるのではないか」ということもよく言われます。果たしてそうでしょうか。
　テレワーカーの多くは、自分が目の届かないところで働いているが故に、オフィス以上の緊張感と責任感を持って仕事をし、成果を出そうとしていると思われます。
「サボる人　オフィスにいたって　サボるよね」は、テレワーカーだからサボるのではなく、サボる人はオフィスにいてもサボるということを謳った作品です。オフィスにいてもテレワークをしても、出来る人は自分を律してしっかり仕事をし、成果を上げるものですし、そういう働き方が企業に求められているのではないでしょうか。

入賞

サボる人
オフィスにいたって
サボるよね

テレワークマイラブ



入賞

今日もまた
はんこのために
出社する

せごどん

入賞

オフィスさえスマホのように持ち歩く

ぴかちゅー

働き方（職場）

テレワークは、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方です。
在宅勤務のほか、サテライトオフィス、喫茶店、移動中の電車の中など、オフィス以外の様々な場所が仕事場となり得ます。
「カフェテラス　パソコンを開けば　すぐオフィス」は、１台のパソコンが、どんな場所でもたちまちのうちにオフィスと同じ仕事が出来る空間に変えてしまう、というテレワークの特長を表現した作品です。

場所を選ばず仕事が出来るテレワークは、働くことの可能性を大きく広げるものとなります。夫の転勤で引っ越しを余儀なくされたとしても、移転先でテレワークを行うことで妻が仕事を続けることが出来た事例もありますし、「駐妻も　テレワークなら　働ける」のように、海外に行ったとしても働くことは可能となりましょう。
また、ウェブ会議を活用することで、どこにいても世界とつながることが出来るようになり、「ど田舎の　茶の間で実感　グローバル」のように、田舎の片隅でもグローバルな仕事をして世界を実感することも出来ます。
こうした場所にとらわれない働き方の導入は、働き方改革を進めていくための大きな一歩であり「改革は　居間（今）から始まる　テレワーク」と言えましょう。

最近、「ワーケーション」という言葉がよく使われるようになってきました。「ワーク」と「バケーション」を掛け合わせた言葉で、例えば、夏休みなどにおいて、家族とともに帰省したりバカンスを取ったりする際に、期間の前半は休暇を取り後半はその地に残ってテレワークをする、というような過ごし方です。
「テレワーク　今度の夏は　ふるさとで」のように故郷で仕事をすることも出来ますし、旅行先で仕事が出来ることで急な会議が入っても予定していた家族旅行をキャンセルせずに済んだ事例もあるようです。

台風や大雪など通勤困難な時に在宅で仕事が出来るのも、テレワークのメリットです。「はじめたい　外は台風　テレワーク」は、テレワークを導入していない企業の人が「テレワークが出来ればいいのに」ということを実感する場面かもしれませんね。
様々なメリットがあるテレワークが普及し、多くの人々がそのメリットを享受することで、より豊かで幸せな生活を送ることが出来れば素晴らしいことですね。

佳作　セレクション

ど田舎の
茶の間で実感
グローバル

やじろべー

駐妻も
テレワークなら
働ける

ポルカ

佳作　セレクション

テレワーク
今度の夏は
ふるさとで

にせぐるめ

カフェテラス
パソコンを開けば
すぐオフィス

イヂロー

佳作　セレクション

はじめたい
外は台風　テレワーク

べこ

改革は
居間（今）から始まる
テレワーク

田中かなた

コミュニケーション

　テレワークを導入・実施していくうえでは、テレワーカーが職場の人たちと十分なコミュニケーションを取ること、そして信頼関係を構築することが非常に重要です。そして、「バーチャルも　リアルもベースは思いやり」のとおり、このことは、テレワークに限らず、オフィスで仕事をする場合にも当てはまることなのではないかと思われます。
　ウェブ会議などが積極的に行われているあるＩＴ関連の会社では、毎朝、朝礼を行い社員の健康状態の確認等をしているそうで、そうしたコミュニケーションがテレワークを含めた会社の業務運営を支えるベースになっているとのことです。とかく孤独になりがちなテレワーカーに対し、職場の人たちが思いを寄せ、その状況を理解する姿勢を持つことも非常に重要なことと言えましょう。

　テレワーカーがコミュニケーションを取るツールとして、ウェブ会議などは非常に有効な手段です。必要な時に業務内容の報告・共有・相談などが出来れば、業務効率も上がります。
「「ちょっといい？」　全国の人が　すぐ集結」のように、全国で業務を行うテレワーカーたちが簡単に繋がってコミュニケーションが取れるということは、ウェブ会議の大きな利点ですね。
　デジタルネイティブと言われる若者は、こうしたツールを容易に使いこなすことが出来、テレワークに抵抗なく入っていける人たちと言えましょう。先輩社員たちは、「若者の　チャットの速さに　舌を巻く」ことになりそうですが、何とかついて行きたいものです。

　「インスタ映え」という言葉が流行語大賞に輝きましたが、見栄えの良さに関心が向くのは、テレワーカーでも同じことでしょう。
「ウェブ会議　インスタ映えに　家飾り」のように、ウェブ会議で自分の家を少しでも良く見せたいと飾りたい心境はよく分かりますね。
　でも、テレワーカーが他の人に関心を持ってもらえることは良いことです。他者に対して無関心にならずに興味を持ち、相手の心情を慮る姿勢を持つことが、明るく活気ある風通しの良い組織に繋がっていくのではないでしょうか。

入賞

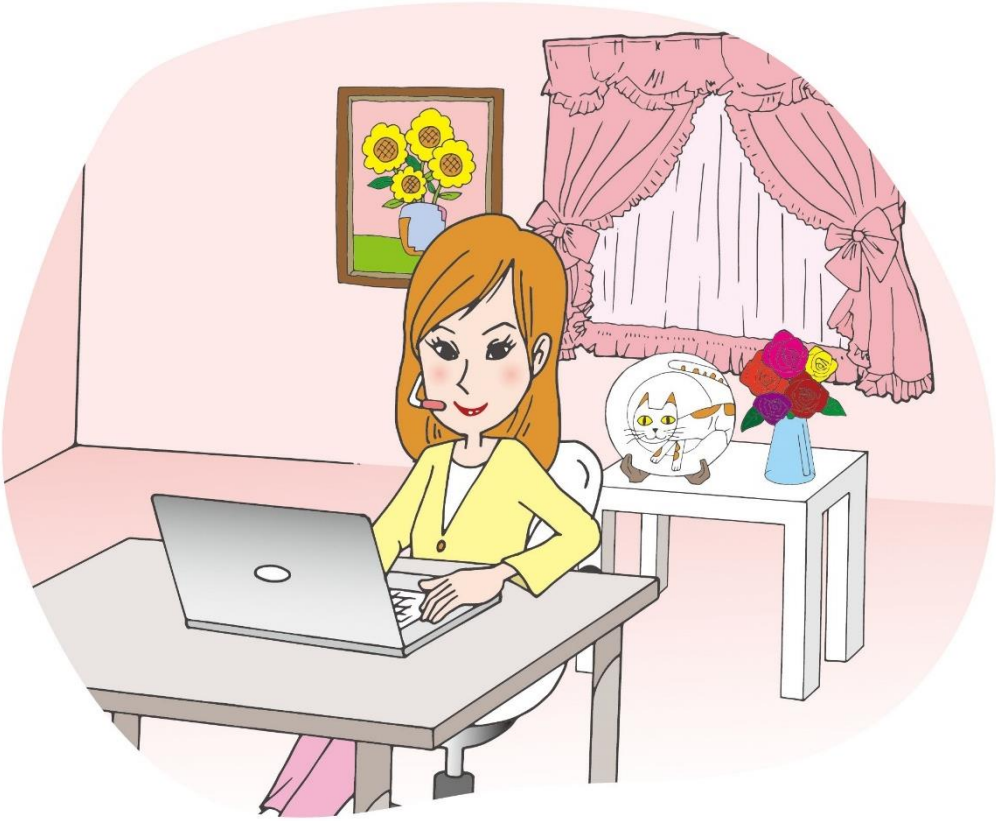
バーチャルもリアルもベースは思いやり

ハッピーエンド

入賞

ウェブ会議
インスタ映えに
家飾り

もばいるフレンズ



佳作　セレクション

「ちょっといい？」全国の人がすぐ集結

グッド・コミュニケーション

若者のチャットの速さに舌を巻く

せごどん

コラム②　ウェブ会議のハプニング

　コミュニケーションを取るうえで便利なウェブ会議ですが、会議中、様々なハプニングが発生し、テレワーカーをハラハラさせることもあります。
　ここでは、そんな作品を集めてみました。

テレ会議　爺ちゃんのそっと　映り込み
らくちゃん

テレ会議　画面の隅から　ネコパンチ
らくちゃん

会議中　「ママおしっこ」の　声響き
青い春

ウェブ会議　初めて気づいた　顔のしわ
わたがし

育児・介護

　テレワークを語るうえで、育児や介護をしながら仕事を続けたいと願う大勢の人々の存在は、避けては通れません。育児のために仕事を続けることを断念する人や介護のために離職する人はまだまだ多く、「テレワーク　仕事と育児の　二刀流」のとおり、テレワークは、そうした人たちが育児・介護と仕事を両立するための大きな手助けになります。ある自治体のテレワーク導入に尽力された方が、退職した際に、ある女性から「テレワークがあったおかげで仕事を辞めなくてすんだ」と涙ながらに感謝されたと聞きます。

　とは言え、育児や介護と仕事を両立させていくことは容易なことではありません。公私のメリハリをつけながらテレワーカーたちは、それぞれ工夫と努力をしながら懸命に両立を図っています。
「テレワーク　時々看に行く　母の部屋」のように、仕事の合間に介護している母親の様子を見に行ったりすることもあるでしょうし、時間のやりくりを工夫して子どもの保育園の送り迎えやお弁当作りを行っている人もいるでしょう。特に介護は、いつ終わるか分からず、徐々に負担も増えてくるものです。テレワークを活用しつつ、ケア・マネージャーを始めとする多くの方々と連携・協力しながら介護を行っている方も多いようです。

　こうした苦労は多いですが、テレワークにより通勤時間がなくなれば、時間の有効活用はより可能になります。
「こどもへの　「早くしてっ！」が　減る火曜」は、１週間のうち火曜日はテレワークを行える母親が、通勤が必要な他の曜日に比べて火曜日だけは気持ちに余裕が持てて、いつもならついつい子どもを急かすような言葉をかけてしまうことが減ることを表現した作品です。子どもにとっても、テレワークは嬉しいものですね。

　更に、「昼休み　ママに代わって　イクメンに」のように、テレワークを男性も積極的に行うようになることで、男性が家で仕事をしながら、昼休みの時間帯は、母親に代わってランチを作ったり子どもの相手をしたりするなど、より家庭への関わりを増やしていくことも出来ます。
　テレワークにより、仕事と家庭の両方を大切にし充実した生活を送れる人が増えることが期待できるのではないでしょうか。

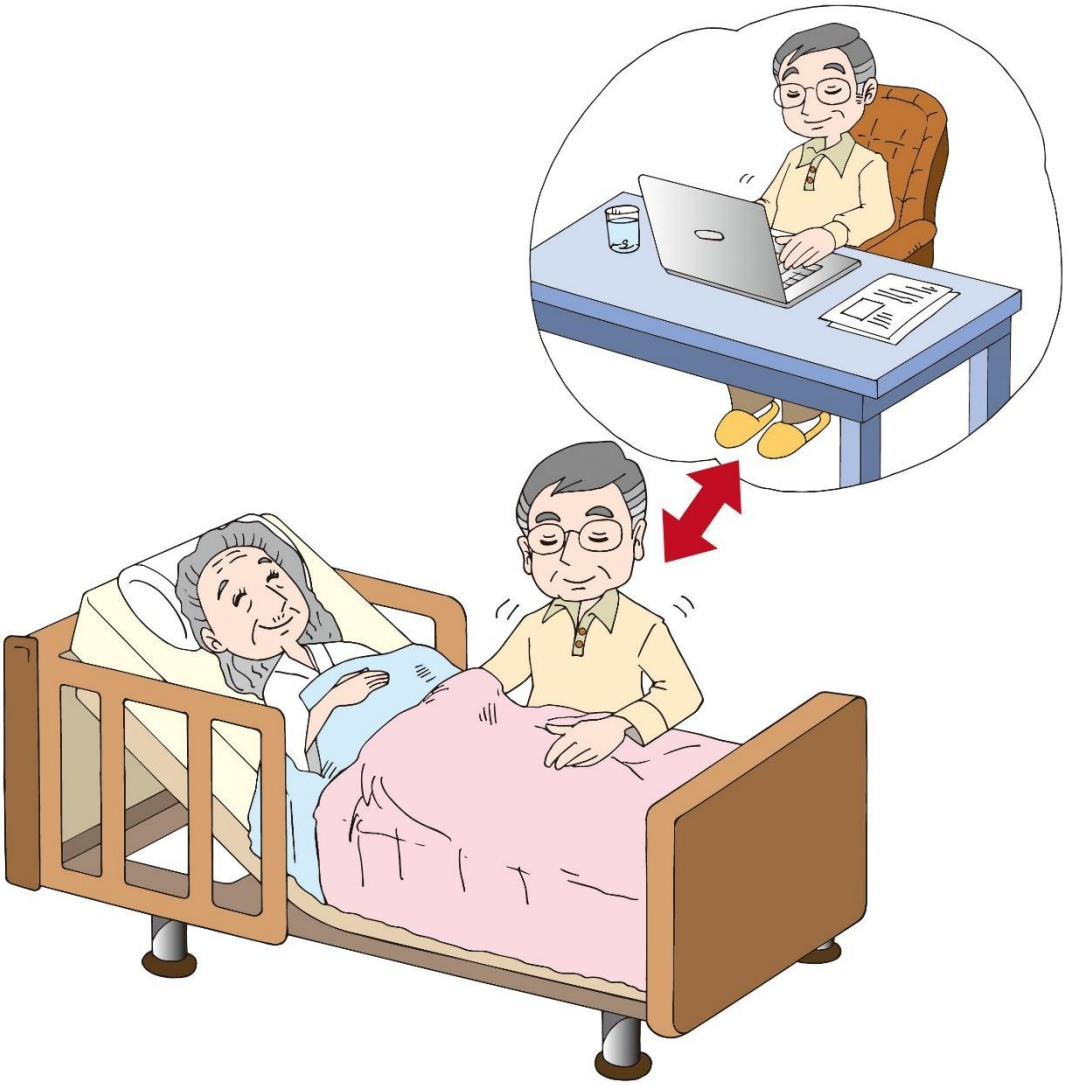
佳作　セレクション

テレワーク
仕事と育児の
二刀流

ハルル

テレワーク
時々看に行く
母の部屋

らくちゃん



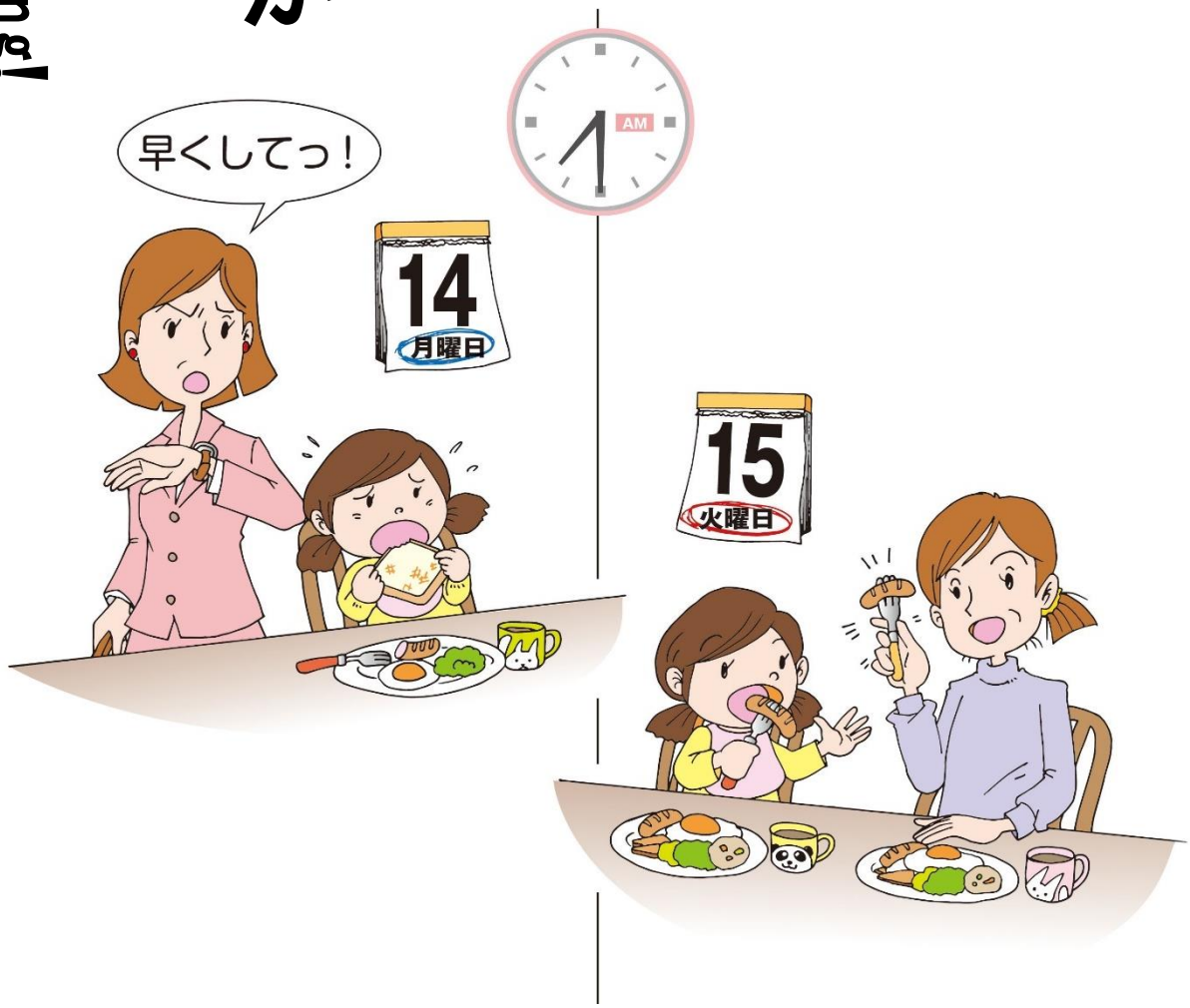
佳作　セレクション

昼休み ママに代わって イクメンに

カジ

こどもへの「早くしてっ！」が減る火曜

Let's enjoy working!



家庭

「人生百年時代」と言われる現代において、ワーク・ライフ・バランスをいかにうまく取り、日々の生活を豊かで充実したものにしていけるかは大きな課題と言えましょう。　テレワークは、家庭と仕事のバランスをうまく取っていくための非常に有効な手段です。
「終業の　合図は子とする　ハイタッチ」（グランプリ賞作品）は、テレワークを行う人が公私の切り替えを行う場面を描いた作品ですが、しっかり仕事を行った後、家庭の時間への転換を子どもとのハイタッチという形で行うというワーク・ライフ・バランスの在り方は、とても良いものですね。

また、テレワークを男性も積極的に行うようになると、「お帰りと　妻を迎える　テレワーク」のように、オフィスで仕事をする妻を、テレワークをする夫が家で食事を作りながら迎えるという場面も増えてくるのではないでしょうか。テレワークは男性の料理の腕前を向上させる効果もありそうです。

ただ、日本では、家庭をあまり顧みず会社の仕事に没頭してきた人も多いかもしれません。こうした人にとっては、仕事以外の人生との向き合い方は大きな課題ですね。テレワークをやろうにも、「ハードルは　家庭に居場所が　ないことか」ということにならないよう、日ごろから気をつける必要がありますね。なかなか難しい問題ではありますが。。

テレワークの効用は、「寛げる　家だからこそ　出たプラン」のように、オフィスと離れた環境で仕事をすることで、オフィスでは生まれないアイデアが生まれるということも挙げられます。他の邪魔をされることがなく、リラックスした雰囲気の中で集中して仕事が出来ますので、業務効率が上がるという効果があることも指摘されているところです。

テレワークは、生産性の向上、優秀な人材の維持・確保、災害時の事業継続など、企業にとって経営上の様々なメリットがあるものと言えましょう。近年は、テレワークを単なる福利厚生的なものではなく、重要な経営課題と位置づけ、導入を推進している企業も増えています。こういう企業が増え、テレワークが地方や中小企業にも広まっていくことが、今後益々期待されます。

入賞

ハードルは家庭に居場所がないことか

会社人間

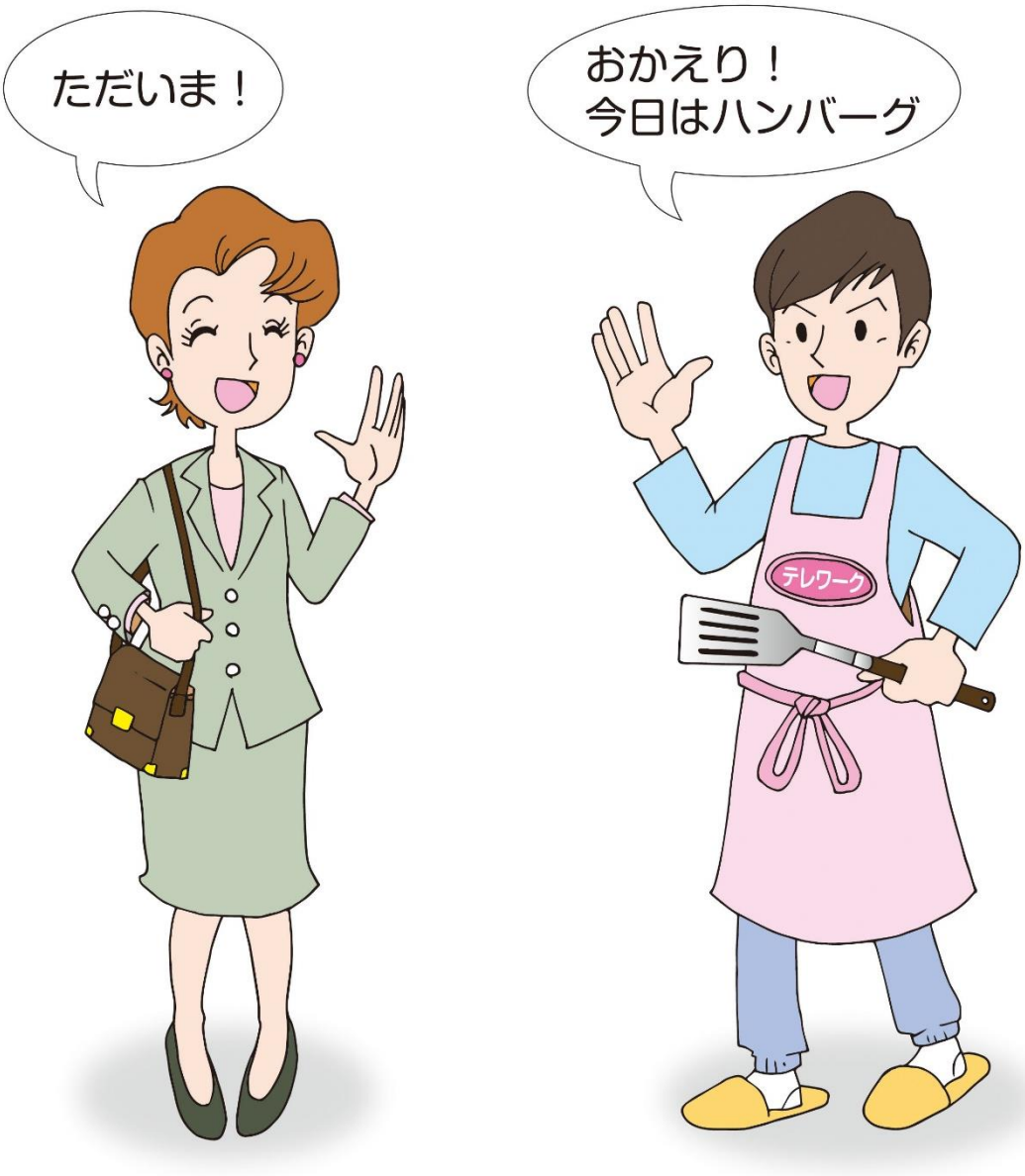
佳作　セレクション

お帰りと妻を迎えるテレワーク

らくちゃん

寛げる家だからこそ出たプラン

嵐山



佳作

社　会

□ファーストは ワークじゃないよ ライフだよ
□テレワーク　時代に見合う　生きる術
□過疎地にも　夢を広げる　テレワーク
□人生に　テレワークという　選択肢
□テレワーク　睡眠負債は　完済だ

多様な働き方

□多様性　認め仕事の　花が咲く
□テレワーク　広がる夢と　可能性
□障害も　生涯にする　テレワーク
□優秀な　人材逃がさぬ　テレワーク
□二兎追って　二兎手に入る　テレワーク

凸凹粘土層
フーマー
蕎麦酔人
逆ペリカン
ウーロンパーク

なるほどマン
やじろべー
鮭とば
人生１００年時代
いいだや

佳作

上司部下

□粘土層　やらせてみたら　推進派
□粘土層　テレワーク・デイで　開眼す
□粘土層　だった自分が　恥ずかしい
□粘土でも　掘り進めれば　水流れ
□「効果出せ！」やってみてから　言ってくれ

ともはる
ゆきだるま
らくちゃん
導入担当者
せごどん

働き方（仕事）

□見える化を　すべきは人じゃ　なく業務
□テレワーク　やって身にしむ　自己管理
□顔見せぬ　わが社のエース　テレワーク
□時と場所　選ばぬ仕事　選ぶ知恵
□成果見え　高まるやり甲斐　自己実現
□会社より　部下の知恵湧く　テレワーク
□もう一度　キャリア生かして　テレワーク

うめ吉
らくちゃん
らくちゃん
だいちゃんZ！
夢を追いかけて
なるほどマン
ハルル

佳作

働き方（仕事）

□場所の壁　越えて見つけた　いい仕事
□お花見の　場所取りしながら　テレワーク
□願ってた　働き方が　ここにある
□テレワーク　でも存在感が　半端ない
□空調も　自分仕様で　風邪知らず
□穏やかな　顔になったね　社に行く日
□一人でも　気持ちはみんなと　テレワーク
□同僚の　写真を貼れば　オフィス風
□いい知恵は　離して生まれる　テレワーク
□会議前　自宅でつくる　勝負メシ
□テレワーク　認めた会社に　イイネする
□付き合いの　残業減らす　テレワーク
□テレワーク　十人十色の　活かしかた
□柔軟な　発想育む　テレワーク

ひこうき雲
モバイルとおちゃん
まびまび
いいだや
ゆきだるま
かきくけ子
ポルカ
ポルカ
だいちゃんZ！
ろんちゃん
逆ペリカン
人生１００年時代
人生１００年時代
人生１００年時代

佳作

働き方（職場）

□古民家と　高層ビルで　会議中
□仕事中　窓から見える　四季の色
□ひらめいた！　自宅のトイレで　イノベーション
□テレワーク　服のローテに　悩まない
□ふるさとで　午後は半日　親孝行

らくちゃん
鮭とば
わくわくワーカー
ハルル
にせぐるめ

コミュニケーション

□テレ会議　画面の隅から　ねこパンチ
□ウェブ会議　初めて気づいた　顔のしわ
□会議中「ママおしっこ」の　声響き
□テレ会議　爺ちゃんのそっと　映り込み
□わたしより　化粧上手な　ウェブソフト
□仲間との　ランチが目的　出勤日
□オフィスより　むしろ濃密　報連相
□ミーティング　コタツの部屋が　会議室

らくちゃん
わたがし
青い春
らくちゃん
テレワークオタク
月1回のお楽しみ
ヨリコのおまけ
おーぎ屋

佳作

育児・介護

□介護の手　増やしてくれる　テレワーク
□保育園　落ちて拾って　くれた神
□介護する　親も感謝の　テレワーク
□マタニティ　外眺めつつ　テレワーク
□テレワーク　働くママの　救世主
□昼ご飯　母に食べさせ　テレワーク

家　庭

□減ったのは　通勤時間と　おこづかい
□テレワーク　休憩時間に　布団干し
□子の机　お下がりにして　テレワーク
□保育園　いっしょにいけると　喜ぶ子
□昼休み　台所に立ち　パスタ茹で
□妻が言う　たまに会社へ　行ってくれ
□「ただいま」の　子の声で　ログアウト
□イイ机　買う訳妻に　テレワーク
□背中見て　子夢膨らます　テレワーク
□お仕事場　今日はどこかと　子に訊かれ
□テレワーク　ぐうたら亭主の　裏の顔

アカエタカ
三郎
ハルル
たむたむ
怪傑もぐり33世
らくちゃん

サボ
田中かなた
たむら　みはる
ともはる
たむたむ
一服
さるり
クロネコ太郎
まびまび
江戸川散歩
らくちゃん

＜おわりに＞

最近、某テレビ番組をたまたま見ていて嬉しいことがありました。
日本の一般の方の”チャーハンとピラフの違い”の認知度40%より、”テレワーク”の認知度がはるかに高く60%となっていたことです。
私たちライフコース多様化とテレワーク部会では、2012年より様々な研究と議論を行ってきました。2009年から活動を始めた前身の部会も含めると10年目になります。
その中で、私たちが大きな課題と認識したのは、テレワークの認知度の低さでした。政府のKPIにもなり、大企業等では既に加速度的に推進が進んでいましたが、国民の多くが「“テレワーク”という言葉と概念を知らない」という現実がありました。
原因を議論していくうちに、「企業でテレワークを推進していても、地域にはそれを広めていない」ということに突き当たりました。
打開策について様々な案が出ました。そして2年前、初めて「テレワーク川柳」を企画し、広く一般公募し、秀逸な百選を世に出すに至り、この度、3冊目の「テレワーク川柳」をお届けすることができました。
初代「テレワーク川柳」の佳作の作品にこんな作品があります。
「『あら今日も　お休みですか』と聞かれ 『はい・・・』」（ご近所の関所 作）
これは、テレワークを行うことは会社等では問題なく実施できるようになったものの、ご近所への説明となると難しく、故になかなか一般に広まらなかった状況を表しています。
ところが、昨年には、このような作品が登場してきました。
「『おや、どうも』 隣の旦那も テレワーク 」（ワークランバランス 作）
「ママ友に 少し自慢の テレワーク」（木立慈雨 作）
そして、ついに今年はこのようになりました。
「『いいな』から　『うちも』に変わった　テレワーク」（桜さくら 作）
この1、2年の間に『うちも』に変わるまでには、いくつかの要素があると考えます。
その1つがテレワークの反対勢力であった“粘土層”です。“粘土層”の経年変化について本冊子のコラムにイラスト入りで掲載させていただきました。
2つ目がWeb会議が容易に行えるようになったことです。テレワーク中のWeb会議時のほほえましいハプニングについても、4コマ漫画風コラムとして掲載しました。
3つ目は、テレワークのオリンピック・パラリンピックに与える効果です。昨年版「テレワーク川柳」では、他に先駆け、コラムと「おわりに」でその効果をお伝えしました。2017年には、2020年の東京オリンピック開会式にあたる7月24日をテレワーク・デイとする取り組みが大々的に行われ、初めてテレワークを行った方も多数いました。
今回、900を越えるいずれ劣らぬ作品が集まったのも、テレワークの認知度が上がり、実施者も増えたためではないかと一同喜んでおります。ただし、年々選考が難しくなり、嬉しい悲鳴を上げることとなりました。
ここまで一般の方の認知度が向上した理由の一つに「テレワーク川柳」があると自負しています。「テレワーク川柳」をお渡しすると、渡された方が更に別の方に「テレワーク川柳」を広めてくださるという場面を何度も見てきました。たった17文字で瞬時に講演１回分に匹敵するほどの伝達力があり、添えられたイラストには、誰もが情景を想像することができます。
この冊子がきっかけとなり、更なるテレワーク推進のお役に立つことができましたら幸いです。

一般社団法人日本テレワーク協会
ライフコース多様化とテレワーク部会長
北村　有紀（ＮＴＴデータ）

テレワークは、ＩＣＴ（情報通信技術）を活用し
時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方です。

（在宅勤務・モバイルワーク・サテライトオフィスの総称）

在宅勤務

モバイルワーク

サテライト
オフィス勤務

一般社団法人日本テレワーク協会
「ライフコース多様化とテレワーク部会」
テレワーク川柳審査委員会
編集・解説：荒木 浩一
イラスト：くりまん
協会ＨＰ：http://www.japan-telework.or.jp
テレワーク川柳問合せ先：telework-senryu@japan-telework.or.jp

平成３０年２月発行